

一般社団法人 **日本リウマチ学会**

**第 23 回定時社員(会員)総会資料**

第 1 号議案	2025 年度事業報告書承認の件
第 2 号議案	2025 年度決算報告書承認の件
第 3 号議案	2026 年度予算案承認の件
第 4 号議案	定款運用規則の改定の件
第 5 号議案	英文誌の冊子体発行終了の件
第 6 号議案	新評議員の選出承認の件
第 7 号議案	名誉会員・功労会員の選任承認の件
第 8 号議案	第 73 回学会長の選出の件
報告事項	2026 年度学会賞・奨励賞の受賞者について

2026 年 4 月 22 日

一般社団法人日本リウマチ学会

## II. 事業（会務）報告

## 1. 会員の状況

2026年3月1日現在の社員（会員）総数は9,711名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。  
注：（ ）内は、2025年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,711名（9,729名）	-18名	[海外名誉会員を除く]
種別内訳：			
一般会員	8,048名（8,072名）	-24名	
評議員	1,043名（1,027名）	+16名	
名誉会員	49名（44名）		[国内名46名（44名） 海外3名]
功労会員	237名（230名）	+7名	
購読会員	337名（356名）	-19名	

## 年間会員増減：

（2025年3月1日～2026年2月28日）

新入会名	402名	（379名）	+23名
再入会	8名	（6名）	+2名
△退会者	404名	（450名）	-46名

（定款第9条第1号希望退会者247名、同条第2号による退会者157名）

## 2. 活動目標

2025年4月に発足した第12期理事会において次の活動目標を掲げて活動した。

- 1) 卒前教育、卒後教育の体制整備
- 2) アカデミアとしての存在意義の確立
- 3) 世界をリードできる国際体制を構築
- 4) 若い力の結集と情報化の推進
- 5) 社会保険医療の改善

## 3. 2025年度事業報告

## 1) 総会・学術集会

第69回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 川上 純

会期：2025年4月24日～4月26日

会場：福岡市

参加者：6,700名

（海外からの参加者：250名、専攻医・初期臨床研修医・医学部学生：173名）

## 2) 支部学術集会

第35回北海道・東北支部集会	11月22,23日	郡山市	会長	佐藤 秀三
第35回関東支部集会	12月6日	高崎市	会長	廣村 桂樹
第36回中部支部集会	9月12,13日	金沢市	会長	松下 功

第 34 回近畿支部集会	9 月 13, 14 日	神戸市	会長	中川 夏子
第 36 回中国・四国支部集会	10 月 4, 5 日	高松市	会長	土橋 浩章
第 69 回九州・沖縄支部集会	3 月 15, 16 日	那覇市	会長	潮平 芳樹
第 70 回九州・沖縄支部集会	9 月 13, 14 日	福岡	会長	中島 康晴

### 3) 理事会

2025 年度定例理事会を 5 回開催した。主要審議事項は次のとおり。

#### 第 1 回理事会 (4 月 23 日)

定例評議員会・総会承認事項の審議(事業報告, 決算・監査報告, 予算審議, 名誉会員・功労会員・評議員の選任, 第 72 回学会長選出, 第 69 回学術集会の実施概要, 卒前教育について, 2026 年診療報酬改定案, 高額療養費制度の上限引き上げに関する見解, リウマチ性疾患多発筋痛症の治療調査小委員会の設置, 医学教育助成プログラムの実施, 日本リウマチ学会会員データの分析等

#### 第 2 回理事会 (6 月 8 日)

第 69 回学術集会アンケート結果報告, 第 70 回学術集会予算およびプログラム, 医学教育助成の実施概要, 出荷調整・販売中止要望への対応, J-STAR-IR 委員とメンバー, 全身性硬化症移行期医療の診療の質改善のための取り組みに関する研究等

#### 第 3 回理事会 (8 月 17 日)

第 69 回学術集会決算, 第 70 回予算およびプログラム, 学術集会の WEB 参加について, 倫理委員会の審議・承認を得ていない未承認薬の症例報告, JCR2028 及び JCR2029 の運營業務受託者の選定, 厚生労働省との協議, 学会誌の冊子版廃止の検討, 卒前教育委員会規則, 2025 年度教育施設(新規・継続)の認定, 学会賞選考委員の選出, APLAR2025, 就業規則の改定, Minds 診療ガイドライン作成支援サービス等

#### 第 4 回理事会 (11 月 9 日)

第 69 回学術集会会計の会計監査終了報告, 第 70 回学術集会予算/プログラム, 厚生労働省・文部科学省との協議, 学会賞, 奨励賞の審査方法, フロンティア研究助成の審査結果, 医学部卒前教育ビデオ, 2025 年度日本リウマチ学会専門医試験の実施概要, 2026 年アニュアルコースレクチャー, IF 向上策の検討, HOKUTO との協定, JCR-EULAR トレーニングプログラム 2025 選出者, 国際名誉会員の推薦, J-STAR シンポジウム, 略語の検討, 薬剤の販売中止・停止・再開などへの対応, リウマチチーム医療促進小委員会の設置, ドラッグ・ロス品目の収集に関するアンケート調査, APLAR2025 等

#### 第 5 回理事会 (2 月 1 日)

第 70 回学術集会(予算/プログラム/社交行事), 第 70 回学術集会の会期変更の確認, 第 73 回(2029 年度)学会長推薦, 2026 年度新評議員・名誉会員・功労会員の選出, 2025 年度決算及び 2026 年度予算案, 全身性自己免疫疾患の病態解明に資する研究推進プログラム, 事前学習用ビデオの活用, MRYS Excellent Paper Award, 2026 年度専門医と指導医(新規・更新)の認定, 専門医規則の改定に向けた提案, JCR2025 Excellent Abstract Award/Travel Award 受賞者, 2031 年の学術集会会場の選定, 2026 年度 ACL/中央教育研修会プログラム, J-STAR-BR のメンバー, 2028 年診療報酬改定に向けた活動, 『膠原病と妊娠』のサイト作成等

### 4) 委員会

#### (1) 総務委員会

- └ 医療戦略小委員会, axSpA および LORA に関する教育担当小委員会
  - ・ MR の冊子体廃止に向けたプロセスをまとめた。
  - ・ 学会設立 70 周年記念事業の準備を開始した。
  - ・ 学会賞・奨励賞の評価方法を策定した。
  - ・ 医療戦略小委員会を設置し行政との情報共有を検討した。
  - ・ axSpA および LORA に関する教育担当小委員会を設置し教育シンポジウムの開催準備を進めた。
- (2) 膠原病リウマチ内科学の医学部卒前教育委員会
  - ・ 文部科学省高等教育局医学教育課を訪問し各大学医学部に膠原病講座の主任教授の配置を要望した。
  - ・ 内科指導医が 2 名以内の大学を訪問し主任教授の配置する必要性を説明した。
- (3) 専門医制度委員会
  - └ 専門医資格認定委員会, 教育施設認定委員会
    - ・ 2025 年度の膠原病・リウマチ内科領域研修の基幹施設は前期比 9 施設増の 270 施設となった。
    - ・ 1 月 18 日に実施した専門医認定試験は学会認定専門医合格者 99 名 (合格率 87.61%), 機構認定専門医合格者 48 名 (合格率 88.89%) であった。
- (4) 学術集会委員会
  - └ 学術集会財務担当委員会, 学術集会プログラム担当委員会
    - ・ 第 70 回学術集会が大型イベントと重なることが判明したため, 会期を変更する計画を理事会へ提出した。
    - ・ 2032 年の学術集会を京都国際会館で実施する案を理事会へ提出した。
- (5) 生涯教育委
  - └ RA 超音波標準化小委員会
    - ・ 中央教育研修会を 8 月に大阪, 12 月に東京で開催した。
    - ・ 6 年振りとなる関節超音波講習会中級コースを開催した。
- (6) 学会誌編集委員会
  - └ MR 編集委員会, MRCR 編集委員会
    - ・ 学会誌 Modern Rheumatology (MR)を年 6 回定期刊行, およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集)を年 1 回刊行した。
    - ・ 2024 年の Impact Factor (IF) は 1.9, 5 年 IF は 2.2 であった。
    - ・ 24 論文を「2025 MRY Excellent Paper Award article」に選出した
    - ・ MRCR の 2024 年 IF は 0.9, 5 年 IF は 0.8 であった。
- (7) 情報化委員会
  - └ ニュースレター小委員会
    - ・ 学会 HP や SNS を通じ学会の情報発信を推進した。
    - ・ 医学生や若手医師の間で多く利用されている「HOKUTO」を通じ JCR の情報を配信した。
- (8) 国際委員会
  - └ 国際育成セミナー小委員会
    - ・ 第 69 回学術集会で海外演者を対象とした「Travel Award」を実施, JCR 会員には国際ワークショップ優秀演題賞を実施した。

- ・ APLAR 2025 (福岡) において「APLAR 2025 Travel Award on JCR」を実施した。
- (9) J-STAR 委員会
- ↳ J-STAR-BR, J-STAR-CR, J-STAR-IR
    - ・ 第 12 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンスにおける J-STAR-BR セッションを企画した。
    - ・ 第 70 回学術集会で J-STAR シンポジウムを実施した。また臨床海外留学相談会、JCR 臨床研究／基礎研究オープンカフェを開催した。
- (10) 男女若手共同参画委員会
- ・ 男女若手共同参画奨励賞の受賞者を選出した。
  - ・ 第 70 回学術集会で委員会企画シンポジウムを開催した。
- (11) 財務委員会
- ・ 2025 年度決算、2026 年度予算をまとめ理事会へ報告した。
- (12) 利益相反マネジメント委員会
- ・ 新理事および監事、また特定委員会委員の COI 申告書を審査した。
- (13) 倫理委員会
- ・ 倫理に関する問題を検討し適宜理事会へ報告した。
- (14) 医学用語委員会
- ・ リウマチ用語集の見直しを進めた。
  - ・ 厚生労働省と日本医学会へ全身性硬化症、シェーグレン病、特発性炎症筋疾患などの病名変更申請を行った。
- (15) 社会保険委員会
- ↳ 内保連対応小委員会、外保連対応小委員会、入院医療保険小委員会、医薬品安定供給検討小委員会、リウマチチーム医療推進小委員会
    - ・ 令和 8 年度診療報酬改定に向け 6 件の要望書を提出した。
    - ・ リウマチ性疾患に関する医療環境整備を目的として、入院医療保険小委員会 (DPC 等を含む) 検討小委員会に加え、新たに内保連対応小委員会、外保連対応小委員会、医薬品安定供給検討小委員会およびリウマチチーム医療推進小委員会を設置し、各専門領域に関する課題への対応を行う体制を整えた。
- (16) 基礎研究推進委員会
- ・ 第 12 回ベーシックリサーチカンファレンスを開催した。
- (17) 臨床研究推進委員会
- ↳ 疫学調査小委員会
    - ・ 臨床研究トレーニング合宿、システムティックレビュー アドバンストワークショップを開催した。
    - ・ 膠原病リウマチ性疾患の組織的、系統的な疫学調査を目的として、新たに疫学調査小委員会を設置した。
- (18) 調査研究委員会
- ↳ 製造販売後調査小委員、小児リウマチ調査検討小委員会、膠原病妊娠登録小委員会、移行期医療検討小委員会、高齢発症 RA 調査小委員会、HCQ 療法の使用調査小委員会、ワクチン調査小委員会、医療イノベーション推進委員会、CAR-T 細胞療法モニタリング小委員会、かかりつけ医との連携促進小委員会、リウマチ性疾患多発筋痛症の治療調査小委員会

- ・ 新たに HCQ 療法の使用小委員会, ワクチン調査小委員会, 高齢発症 RA 調査小委員会, CAR-T 細胞療法モニタリング小委員会, かかりつけ医との連携促進小委員会, リウマチ性疾患多発筋痛症の治療に関する各小委員会を立ち上げた。

#### (19) ガイドライン委員会

- └ 周術期抗リウマチ薬使用ガイドライン小委員会, MTX 診療ガイドライン小委員会, SLE 診療ガイドライン小委員会, RA ガイドライン小委員会
- ・ 日本リウマチ学会発出のガイドラインとして「膠原病に伴う間質性肺疾患診断・治療方針 2025」, 「シェーグレン症候群診療ガイドライン 2025 年版」, 「リウマチ診療のための関節エコー撮像の手引き改定版」, 「再発性多発軟骨炎診断・治療ガイドライン 2025」, 「自己炎症性疾患診療ガイドライン 2026」を発行した。
- ・ リウマチ医が知っておきたい社会保険・福祉制度, 在宅医療の基礎知識を発行した。
- ・ 次期 JCR 関節リウマチ診療ガイドライン改訂に向けた作業を開始した。
- ・ メトトレキサート指導・確認チェックシートを作成して HP に公開した。

#### 5) 膠原病・リウマチ内科学の医学部卒前教育改善に向けての活動

- (1) 2025 年 11 月に文部科学省高等教育局医学教育課を訪問し, 各大学医学部に膠原病講座の主任教授を配置することが必要であり, 主任教授を配置したことで医局員の数が大幅に増えている例を示しながら専門分野の教諭がない大学向けにモデル講義カリキュラムや学習用ビデオを作成していることなどを報告した。
- (2) 同年 8 月, 11 月, 12 月に厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課を訪問。難病対策課長宛てに全身性硬化症, シェーグレン病, 特発性炎症性筋疾患への名称変更の要望書を提出した。また医政局医薬産業振興・医療情報企画課にも訪問し薬剤供給の不安定化と製薬企業からの過剰要望の整理に関する意見交換を行った。12 月にも医事課, 地域医療計画課, 保険局医療介護連携政策課を訪問し, 診療報酬上の課題と問題を提議し保険点数加算に向けた協議を行った。
- (3) 内科指導医が 2 名以内に留まっている大学を訪問した。病院長または医学部長と面談し膠原病・リウマチ内科専門講座の設置および講座教授を含む専門教員の配置を要望した。
- (4) 「膠原病・リウマチ内科学モデル講義カリキュラム」の事前学修ビデオを作成し, 全国の大学医学部へ案内を送付した。専門教諭が不在の大学においても膠原病・リウマチ内科学の教育が実施できる環境の構築を目指して活動した。

#### 6) 保険制度への対応

- (1) 社会保険委員会を親委員会として, リウマチ性疾患に関する医療環境整備を目的として入院医療保険小委員会 (DPC 等を含む) に加え, 新たに内保連対応小委員会, 外保連対応小委員会, 医薬品安定供給検討小委員会およびリウマチチーム医療推進小委員会を設置し, 各専門領域に関する課題への対応を行う体制を整えた。
- (2) 入院医療保険小委員会では, DPC の MDC07 (筋骨格系・結合組織の疾患) 班会議において本学会からの要望した副傷病 2 つが追加された旨の報告がなされた。
- (3) 医薬品安定供給検討小委員会では, 出荷制限, 供給停止, 薬価削除, 製造販売中止および薬価改定等, 多数の薬剤に関して製薬企業からの依頼に対応した。特に, レフルノミドの排泄促進薬コレステラミンの消尽に伴うレフルノミドの販売中止の可能性の回避については, 製薬企業との間で協議を重ねている。
- (4) リウマチチーム医療推進小委員会では, リウマチ治療におけるチーム医療の推進を

目的として、医師、看護師、薬剤師、理学療法士および作業療法士等で構成し、チーム医療に係る管理加算の新設を目指して意見交換を行った。

#### 7) 研究助成事業

- (1) 厚生労働省より「アレルギー情報センター事業」の付託を受け、保健、福祉関係者および医療従事者と対象とした「リウマチ相談員養成研修会」を12月7日に東京で開催した。
- (2) 「高齢発症RAの適正医療に資する研究推進プログラム」、「JCRフロンティア研究者助成—自己免疫疾患に合併した関節炎の病因・病態・進展メカニズムに関する研究—」の公募を行った。

## 4. 2026年度事業案

### 1) 総会・学術集会

- (1) 渥美達也会長のもと、2026年4月22日(水)～24日(金)に福岡国際会議場・福岡サンパレス・メッセ福岡において第70回日本リウマチ学会総会・学術集会を開催する。
- (2) 高柳広会長のもと、2027年4月26日(月)～28日(水)にパシフィコ横浜で開催する第71回日本リウマチ学会総会・学術集会の準備を進める。また日本リウマチ学会創立70周年に向けた準備を進める。

### 2) 支部学術集会

各支部代表理事および各会長のもと2026年度支部学術集会の準備を進める。

第36回北海道・東北支部集会	11月21,22日	小樽市	会長	牧野雄一
第36回関東支部集会	12月12日	千葉市	会長	中島新
第37回中部支部集会	9月4,5日	甲府市	会長	佐久間陸友
第35回近畿支部集会	9月5,6日	神戸市	会長	武内徹
第37回中国・四国支部集会	10月3,4日	松江市	会長	近藤正宏
第71回九州・沖縄支部集会	3月7,8日	長崎市	会長	川上純
第72回九州・沖縄支部集会	9月5,6日	鹿児島市	会長	砂原伸彦

### 3) 学会誌

- (1) MR論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) 2026年11月発行のVolume 36, Issue 6をもって冊子体の発行を終了し、電子媒体による発行へ変更する。
- (3) 「Modern Rheumatology Young Researcher Excellent Paper Award (MRY Excellent Paper Award)」の論文選定を通年で行い、JCR若手会員をエンカレッジする。MRCRは23論文を上限にSelected Paperとして選出しOpen Access出版とする。
- (4) 国際学会でMRおよびMRCRのプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) 著者、査読者、編集も含めジャーナルへの投稿出版に関わる出版倫理について、教育および周知に努める。

### 4) 専門医制度

- (1) 学会および機構認定専門医制度の管理・検討・規則の改定、指導医の新規認定・資格更新業務、教育研修会の認定業務、他の学会・日本専門医機構との調整を引き続き実施する。
- (2) 膠原病・リウマチ内科領域専門医の育成を目指し、卒前・卒後教育を充実させる。

(3) 学会認定専門医から機構認定専門医への移行と更新に向けた規則と細則件をまとめる。

5) 卒前教育， 卒後教育の体制整備

リウマチ学を志す若き人材の確保のためには， 医学部卒前教育， 卒後専攻医・専門医教育体制の整備が急務である。文部科学省， 厚生労働省と協力し， 全大学に膠原病リウマチ学講座の設置， 教授の配置， および， 機構専門医と学会専門医の共存， 充実により， 高水準のリウマチ医療が地方まで格差なく実践できる教育体制を整備していく。学会認定専門医の広告についても厚労省に要求する。

6) アカデミアとしての存在意義

膠原病リウマチ疾患の診療ガイドラインなどは厚生労働省研究班とも協働して作成し， 本学会が編集し， オースライズする。安全性， 有効性， 経済性， 難治例や併発症への対応等の観点からも適切な診療を主導する。また， 2025 年度に立ち上げた疫学調査委員会において本邦の各疾患の実態を調査する。ガイドライン委員会， 調査研究委員会， 編集委員会などとも協働して， アカデミアとしての存在意義を確立する。

7) 世界をリードできる国際体制を構築

リウマチ学， 治療の急激な進歩に対応するには， ACR， EULAR， APLAR とも協調し， アジアや世界をリードできる体制を構築する必要があります。基礎， 臨床， 基本領域の分野を超えてオールジャパンで取り組み， 新知見を世界に発信できる学会とする。基礎・臨床研究推進委員会， J-STAR 委員会などの活動をさらに活性化する。

8) 若い力の結集と情報化の推進

リウマチ学を志す若き人材を確保する基盤形成が急務である。J-STAR-BR， CR， IR を組織して， 各委員会との協働， 海外の若手との交流を活性化させる。そのためにも， SNS などを有効活用して学会員， 国内外， 患者， 社会に向けた情報化を推進する。

9) 社会保険医療の改善

社会保険委員会に設置した内保連関連， 外保連関連， 入院医療保険， 医薬品安定供給検討， リウマチチーム医療促進の各小委員会を通し， 厚生労働省に療養支援に関わる指導料， 管理料， 加算等を要望し， 医療の質， および， 実地臨床の向上を目指す活動を推進し， 学会員の診療基盤を堅固にする政策を進める。

10) 追加計画

学会としての責任を明確にするためにも関節リウマチ診療ガイドラインをはじめとする各ガイドラインは「日本リウマチ学会」または「JCR」の冠を付け， その活動にあたっての委員会， 新たに設置した小委員会の活動を推進していく。また令和8年度厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）で採択された研究課題に合わせ， 「高齢関節リウマチ患者における医療連携体制整備に資する研究小委員会」， 「メディカルスタッフによる関節リウマチ患者の相談・指導の実態調査研究小委員会」を新たに設置し， 「関節リウマチに対する専門診療レベルの向上およびライフコースを通じた持続可能な医療提供体制の均てん化に関する研究」は関節リウマチ診療ガイドライン小委員会で協働して活動する。

# 決算報告書

第 1 7 期

自 令和7年3月 1日

至 令和8年2月28日

一般社団法人 日本リウマチ学会

東京都港区浜松町2丁目9番6号



# 財 産 目 録

令和8年2月28日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>資産の部</b>			
1.流動資産			
現金	0		
普通預金	818,086,157		
流動口座 計	603,032,229		
みずほ銀行/虎ノ門支店	(3,027,333)		
三菱UFJ銀行/虎ノ門支店	(335,031,107)		
三菱UFJ銀行/第69回学術集會口	(0)		
三菱UFJ銀行/第70回学術集會口	(184,987,000)		
三菱UFJ銀行/第71回学術集會口	(0)		
郵便貯金	(76,661,117)		
郵便振替預金(00140)	(1,943,865)		
郵便振替預金(00170)	(1,381,807)		
特定口座 計	215,053,928		
三菱UFJ銀行/学術集會積立金	(170,800,000)		
三菱UFJ銀行/助成専用口	(44,253,928)		
支部預金	144,703,180		
未収金 クレジットカード 他	5,586,000		
前払金	0		
前払費用	1,104,048		
仮払金	22,563,438		
流動資産合計		992,042,823	
2.固定資産			
基本財産			
三井住友銀行/浜松町支店	120,000,000		
基本財産合計	120,000,000		
その他固定資産			
建物附属設備・器具備品・ソフトウェア	11,196,800		
敷金	10,036,800		
その他固定資産合計	21,233,600		
固定資産合計		141,233,600	
資産合計			1,133,276,423

科 目	金 額		
<b>負債の部</b>			
1.流動負債			
未払金	0		
未払法人税等	70,000		
前受金	7,621,000		
2026~2028年度会費等	711		
指導医登録料 114名	2,280,000		
専門医登録料 99名	1,980,000		
機構認定専門医事務手数料 45名	450,000		
その他 研修会共催金等	2,200,000		
預り金 源泉所得税・健康保険・厚生年金	1,254,824		
仮受金 総会学術集會等	237,374,374		
流動負債合計	246,320,198		
1.固定負債			
学術集會準備基金	170,800,000		
助成金積立準備基金	44,253,928		
固定負債合計	215,053,928		
負債合計		461,374,126	
正味財産			671,902,297

正味財産増減計算書

自 令和7年3月1日 至 令和8年2月28日

(単位:円)

科目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	増減(2025年-2024年)
I.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	121,062,000	121,221,000	159,000
事業収益			0
広告料収入	24,692,800	22,545,600	-2,147,200
諸制度収入	31,244,000	27,637,000	-3,607,000
学術集會収入	346,433,659	323,143,814	-23,289,845
支部収入	166,305,767	181,557,631	15,251,864
教育研修会収入	25,554,500	29,591,500	4,037,000
国際関連事業収入	3,630,000	3,879,000	249,000
助成金収入		53,203,957	53,203,957
経常収益計	718,922,726	762,779,502	43,856,776
(2)経常費用			0
事業費	640,949,785	671,409,438	30,459,653
学術集會経費	336,028,638	301,021,794	-35,006,844
学術集會関連経費	4,576,317	4,518,501	-57,816
関連学会費	2,307,050	2,327,350	20,300
委員会議費	5,867,948	8,216,811	2,348,863
国際関連事業費	7,807,208	8,290,255	483,047
国際関連事業費	22,235,743	22,241,069	5,326
諸制度運営費	11,910,494	10,687,690	-1,222,804
教育研修費	51,915,009	49,487,226	-2,427,783
助成金経費		53,203,957	53,203,957
英文誌経費	24,182,484	23,026,861	-1,155,623
情報通信経費	11,652,284	12,027,613	375,329
調査研究費	2,248,140	5,289,019	3,040,879
支部経費	160,218,470	171,071,292	10,852,822
医学用語集	0	0	0
管理費	122,673,088	114,194,631	-8,478,457
給料手当	26,526,087	22,410,785	-4,115,302
雑給	2,359,648	3,023,739	664,091
賞与	15,593,350	16,003,500	410,150
通勤費	1,276,000	1,705,110	429,110
紹介手数料	2,024,610	1,072,500	-952,110
法定福利費	10,296,629	10,108,398	-188,231
福利厚生費	348,182	220,468	-127,714
報酬	2,771,736	2,793,736	22,000
旅費交通費	24,186	28,170	3,984
通信送	4,171,045	3,067,089	-1,103,956
印刷	1,400,700	500,610	-900,090
消耗品費	2,815,650	1,749,473	-1,066,177
接待費	84,800	21,990	-62,810
保険料	4,288,940	4,326,370	37,430
賃借料	14,356,779	14,153,796	-202,983
水道光熱費	782,415	676,240	-106,175
諸管理費	8,773,352	8,130,259	-643,093
保守管理費	12,386,354	10,719,993	-1,666,361
租税公課	6,643,928	7,414,733	770,805
減価償却費	2,822,265	2,740,516	-81,749
支払手数料	2,711,436	2,846,315	134,879
雑費	214,996	480,841	265,845
経常費用計	763,622,873	785,604,069	21,981,196
当期経常増減額	-44,700,147	-22,824,567	27,916,908
経常外増減の部			0
(1)経常外収益			0
寄付金・助成金			0
雑収入	40,936,191	17,500,807	-23,435,384
移転補償料			0
特別利益			0
経常外収益計	40,936,191	17,500,807	-23,435,384
(2)経常外費用			0
雑損失			0
固定資産減損			0
特別損			0
積立準備基金繰入			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	40,936,191	17,500,807	-23,435,384
当期一般正味財産増減額	-3,763,956	-5,323,760	-1,559,804
一般正味財産期首残高	564,065,113	557,226,057	-6,839,056
一般正味財産期末残高	560,301,157	551,902,297	-8,398,860
II.指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III.基金増減の部			0
基金受入額			0
基金返還額			0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	120,000,000	120,000,000	0
基金期末残高	120,000,000	120,000,000	0
IV.正味財産期末残高	680,301,157	671,902,297	-8,398,860
	759,858,917	780,280,309	
	763,622,873	785,604,069	
	-3,763,956	-5,323,760	

## 財務諸表に対する注記

### 1.重要な会計方針

#### 資産の評価基準及び評価方法

##### (1)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産	法人税法の規定による定率法 但し、平成10年4月1日以降取得の建物については定額法
無形固定資産	法人税法の規定による定額法

(2)消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

### 2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	資産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000
特定資産	特定資産計	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000

### 3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	資産の種類	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち基金からの 充当額)	(うち負債に 対応する 額)
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000	0
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000	0
特定資産	特定資産計	0	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000	0



費目	内容	単価	数量	金額
第69回 日本リウマチ学会総会・学術集会 (学会収入)				
1. 参加者会費 (有料参加者5,970名)				113,686,000
事前参加登録	一般会員	18,000	3,329	59,922,000
	一般 (非会員)	24,000	1,230	29,520,000
	コメディカル・大学院生	4,000	265	1,060,000
	コメディカル・大学院生 (非会員)	5,000	101	505,000
	専攻医	0	298	0
	初期臨床研修医・医学部学生	0	113	0
当日参加登録	一般会員	22,000	488	10,736,000
	一般 (非会員)	24,000	482	11,568,000
	コメディカル・大学院生	5,000	40	200,000
	コメディカル・大学院生 (非会員)	5,000	35	175,000
	専攻医	0	82	0
	初期臨床研修医・医学部学生	0	55	0
2. 懇親会参加費収入				757,000
	全員懇親会参加費	1,000	757名	757,000
3. 単位手数料収入				1,515,000
	日本整形外科学会	1,000	1,515件	1,515,000
4. 抄録集販売収入				2,116,800
	和文抄録集販売	3,000	360件	1,080,000
		3,600	288件	1,036,800
5. 企業展示出展料				45,607,654
	特設ブース	3,300,000	12社	39,600,000
	基礎 (小間)	330,000	16社	5,280,000
	書籍展示 (2社)	727,654	1式	727,654
6. 広告料収入				3,642,100
	抄録集掲載料	671,000	1式	671,000
	ハンディプログラム掲載料	1,431,100	1式	1,431,100
	スマートフォンアプリ広告掲載料	220,000	7社	1,540,000
7. 共催セミナー収入 (57枠)				148,720,000
	モーニングセミナー			
	大A会場クラス	3,080,000	0	0
	大B会場クラス	2,860,000	1	2,860,000
	中会場クラス	2,200,000	3	6,600,000
	小会場クラス	1,320,000	1	1,320,000
	ランチョンセミナー			
	大A会場クラス	3,080,000	5	15,400,000
	大B会場クラス	2,860,000	11	31,460,000
	中会場クラス	2,200,000	13	28,600,000
	小会場クラス	1,320,000	14	18,480,000
	海外招聘者費	660,000	3	1,980,000
	イブニングセミナー			
	大A会場クラス	3,080,000	1	3,080,000
	大B会場クラス	2,860,000	5	14,300,000
	中会場クラス	2,200,000	10	22,000,000
	小会場クラス	1,320,000	1	1,320,000
	海外招聘者費	660,000	2	1,320,000
8. 寄附金収入				7,000,000
	日本製薬団体連合会	5,000,000	1	5,000,000
	福岡コンベンション開催助成金	2,000,000	1	2,000,000
9. 雑収入				99,260
	参加登録取消料	27,260	1	27,260
	ペリトランステスト入金	72,000	1	72,000
10. 繰入金				0
	学術集会繰入基金	0	1	0
収入合計				323,143,814

費目	金額
第69回 日本リウマチ学会総会・学術集会 (学会支出)	
I. 事前準備費	91,834,150
1. 人件費	28,597,497
本部事務局費	26,947,497
サポート準備室人件費	1,650,000
2. 経費	63,236,653
印刷・制作物関係費	35,443,485
情報発信 (ホームページ) 関連費	2,406,604
旅費交通費	1,610,210
演題処理関係費	6,212,085
プログラム関係費	0
通信運送費	7,434,915
備品・消耗品費	264,000
外注費	0
諸経費	9,865,354
II. 当日運営費	172,000,113
1. 人件費	14,729,550
2. 旅費交通費	1,008,871
3. 会場費	30,845,824
4. 機材・備品費	47,623,675
機材・備品費	35,533,355
その他機材費	7,363,620
受付用システム導入費 (クレジット・共催セミナー・事前登録)	4,726,700
5. 看板装飾費	6,842,000
6. 展示関係費	7,116,450
7. 招聘関係費 (非会員招聘費用、トラベルアワード、シンポジウム費用招聘費に該当)	41,730,491
8. 会合関係費 (全員懇親会、ドリンクサービス、会長企画招宴費用含む)	14,469,264
9. ハンズオンセミナー関係費	1,850,068
10. その他	5,783,920
III. 事後処理費	23,274,320
1. 人件費	660,000
2. 旅費交通費	11,764,360
3. 印刷費 (礼状等)	433,400
4. 通信運送費	0
5. 公認会計士監査料 (会計監査料)	275,000
6. 支払手数料	206,486
7. その他諸経費 (クレジット精算手数料)	4,894,664
8. 雑損失	5,040,410
IV. 業務委託費	13,913,211
1. 進行管理費	13,913,211
V. 学術集会準備基金	0
1. 学術集会準備金	
2. 若手育成 (ICW, Travel Award)	
VI. 剰余金	22,122,020
支出合計	323,143,814


## 独立監査人の監査報告書

令和7年9月4日

日本リウマチ学会学術集会財務担当委員会  
委員長 森信 暁雄 殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士

い、見、山、

### 監査意見

私は、第69回日本リウマチ学会総会・学術集会収支報告書（会期令和7年4月24日から令和7年4月26日開催。以下、収支報告書）の監査を行った。

私は、上記の収支報告書は、第69回日本リウマチ学会総会・学術集会の収支の状況を、全ての重要な点において、学術集会事務運営細則に準拠して作成されているものと認める。

### 監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「収支計算書の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、一般社団法人日本リウマチ学会から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 収支計算書作成の基礎並びに配布及び利用制限

収支報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第69回日本リウマチ学会総会・学術集会のために、学術集会事務運営細則に準拠して作成されており、それ以外の目的には適合しないことがある。このことは、私の意見に影響を及ぼすものではない。

本報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第69回日本リウマチ学会総会・学術集会のみを利用者として想定しており、一般社団法人日本リウマチ学会及び第69回日本リウマチ学会総会・学術集会以外に配布及び利用されるべきものではない。

### 収支計算書に対する会長の責任

第69回日本リウマチ学会総会・学術集会会長（以下会長）の責任は、学術集会事務運営細則に準拠して収支報告書を作成することにある。また、収支計算書の作成に当たり適用される会計の基準が状況に照らして受入可能なものであるかどうかについて判断することにある。会長の責任には、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない収支報告書を作成するために会長が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 収支計算書の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体として収支計算書に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から収支計算書に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、収支計算書の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 収支計算書の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 会長が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに会長によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 会長が入手した監査証拠に基づき、重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性に関する収支計算書の注記事項が適切でない場合は、収支計算書に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。
- ・ 収支計算書の表示及び注記事項が、学術集會事務運営細則に記載された会計の基準に準拠しているかどうかを評価する。

## 利害関係

第 69 回日本リウマチ学会総会・学術集會と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書


令和8年3月13日

一般社団法人日本リウマチ学会

理事長 田中 良哉 殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士

小見山 良哉 

監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本リウマチ学会の令和7年3月1日から令和8年2月28日までの第17期事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相

違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、

また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。


以 上

## 監査報告書

私は、一般社団法人日本リウマチ学会監事として、令和7年3月1日から令和8年2月28日までの事業年度の貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録、剰余金の処分に関する議案及び付属明細書を監査致しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和8年 3月14日

一般社団法人 日本リウマチ学会

監事 佐藤 慎 

監事 中川 夏子 

2026年度予算書(案)

(単位:円)

科目	予算案 (2025年度)	実績 (2025年度)	予算案 (2026年度)
I.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	120,500,000	121,221,000	119,774,000
事業収益			
広告料収入	25,360,000	22,545,600	21,400,000
諸制度収入	24,800,000	27,637,000	25,300,000
学術集会所収入	315,612,000	323,143,814	296,050,000
支部収入	152,000,000	181,557,631	155,000,000
教育研修会収入	25,200,000	29,591,500	23,700,000
国際関連事業収入	3,630,000	3,879,000	3,800,000
助成金収入		53,203,957	50,790,000
<b>A 経常収益計</b>	<b>667,102,000</b>	<b>762,779,502</b>	<b>695,814,000</b>
(2)経常費用			
事業費			
学術集会所経費	291,624,000	301,021,794	266,050,000
学術集会所経費	4,500,000	4,518,501	4,800,000
国際連学会費	2,500,000	2,327,350	2,300,000
委員会議費	3,300,000	8,216,811	9,760,000
国際連事業費	9,500,000	8,290,255	8,600,000
国際連事業費	38,700,000	22,241,069	36,900,000
諸制度運営費	8,850,000	10,687,690	9,230,000
教育研修費	46,400,000	49,487,226	50,500,000
助成金経費		53,203,957	38,600,000
英文誌経費	39,800,000	23,026,861	18,500,000
情報通信経費	10,300,000	12,027,613	10,300,000
調査研究費	6,000,000	5,289,019	5,350,000
支部経費	152,000,000	171,071,292	143,000,000
医学用語集			
管理費			
給料手当	20,000,000	22,410,785	24,000,000
雑給	1,500,000	3,023,739	1,800,000
賞与	17,000,000	16,003,500	17,000,000
紹介手数料	1,200,000	1,705,110	2,200,000
通勤費	2,000,000	1,072,500	1,900,000
法定福利費	8,800,000	10,108,398	11,000,000
福利厚生費	400,000	220,468	3,500,000
報酬	2,865,000	2,793,736	2,868,000
旅費交通費	50,000	28,170	50,000
通信費	2,850,000	3,067,089	2,950,000
印刷費	730,000	500,610	650,000
消耗品費	2,300,000	1,749,473	1,780,000
接待交際費	60,000	21,990	50,000
保険料	4,000,000	4,326,370	4,800,000
賃借料	15,800,000	14,153,796	15,650,000
水道光熱費	788,100	676,240	760,000
諸管理費	4,059,000	8,130,259	4,079,000
保守管理費	13,715,000	10,719,993	15,155,000
租税公課	6,060,900	7,414,733	6,172,000
減価償却費	3,200,000	2,740,516	2,800,000
支払手数料	3,000,000	2,846,315	3,270,000
雑費		480,841	
予備費	4,000,000		3,000,000
<b>B 経常費用計</b>	<b>727,852,000</b>	<b>785,604,069</b>	<b>729,324,000</b>
当期経常増減額	-60,750,000	-22,824,567	-33,510,000
経常外増減の部			
(1)経常外収益			
寄付金収入			
雑収入	32,750,000	17,500,807	15,510,000
再開発関連収入			
助成金収入	13,000,000		
積立金取崩収入			
学術集会所等積立取崩	15,000,000		13,500,000
APLAR積立金取崩			4,500,000
前期正味財産繰入			
前期正味財産繰入			
<b>C 経常外収益計</b>	<b>60,750,000</b>	<b>17,500,807</b>	<b>33,510,000</b>
(2)経常外費用			
法人税等			
雑損			
固定資産減損損失			
特別損			
APLAR積立準備基金繰入			
<b>D 経常外費用計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
当期経常外増減額		17,500,807	
当期一般正味財産増減額		-5,323,760	
一般正味財産期首残高		557,226,057	
一般正味財産期末残高		551,902,297	
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 基金増減の部			
基金受入額			
基金返還額			
当期基金増減額			
基金期首残高		120,000,000	
基金期末残高		120,000,000	
IV 正味財産期末残高		671,902,297	
収入合計(A+C)	727,852,000	780,280,309	729,324,000
支出合計(B+D)	727,852,000	785,604,069	729,324,000
差額	0	-5,323,760	0



## 一般社団法人日本リウマチ学会 定款運用規則の改定案

【現 行】	【改定案】
<p>(社員の特典)</p> <p>第3条 定款第6条により入会した社員は、会誌の配布を受け、又その業績を本学会の学術集会ならびに会誌に発表することができる。ただし、学術集会においてリウマチ学会が依頼した講演および編集委員長が依頼した投稿については社員であることを要しない。</p>	<p>(社員の特典)</p> <p>第3条 定款第6条により入会した社員は、<u>(電子版を含む)機関誌</u>の配布を受け、又その業績を本学会の学術集会ならびに<u>機関誌</u>に発表することができる。ただし、学術集会においてリウマチ学会が依頼した講演および編集委員長が依頼した投稿については社員であることを要しない。</p> <p><u>附則 (2026年4月22日)</u> <u>この規則の改定は、2026年度社員総会の承認を得て、2027年1月1日から適用する。</u></p>

## 英文誌 Modern Rheumatology の冊子体発行終了の件

今般の物価上昇に伴う製作資材原価および発送に係る経費高騰、広告収入の減少、環境保護の観点などから、冊子体による発行および会員への配布を2026年末(MR Volume 36, Issue 6)をもって終了する。

なお冊子体の発行終了後も、会員はリウマチ学会公式HPから出版社(OUP)のジャーナルサイトにアクセスすることで、現在同様MRに掲載されている全ての論文を電子版で閲覧することが可能である。

## 評議員選出承認・報告の件(65名)

いしい ゆうしょう  
石井 悠翔 (東北大学病院)

きざわ としたか  
木澤 敏毅 (JCHO 札幌北辰病院)

さとう ひろこ  
佐藤 絃子 (東北大学)

あかみね けいじ  
赤峰 敬治 (東京都立小児総合医療センター)

あくつ ゆうこ  
阿久津 裕子 (東京科学大学)

あさり ゆき  
浅利 佑紗 (医療法人社団伍光会田園調布醫院)

あんどう たかやす  
安藤 貴泰 (聖マリアンナ医科大学)

いげや のりこ  
池谷 紀子 (杏林大学医学部付属病院)

いのまた ひろたけ  
猪股 弘武 (日本大学医学部)

おおた みねと  
太田 峰人 (東京大学医学部附属病院)

おおにし たくま  
大西 卓磨 (国立病院機構埼玉病院)

おぐろ なお  
小黒 奈緒 (昭和医科大学医学部)

かわさき たつや  
川崎 達也 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

かわしま そうご  
川嶋 聡子 (杏林大学)

きむら まきこ  
木村 万希子 (東京都立大塚病院)

きよかわ ともふみ  
清川 智史 (富士森内科八王子リウマチ

膠原病クリニック)

さくらい けいいち  
櫻井 恵一 (聖マリアンナ医科大学)

すぎやま たかひろ  
杉山 隆広 (千葉大学医学部附属病院)

すずき さとし  
鈴木 智 (順天堂大学医学部附属浦安病院)

すずき しょうたろう  
鈴木 翔太郎 (聖マリアンナ医科大学)

すずき たけし  
鈴木 豪 (聖マリアンナ医科大学)

たかくわ ゆきこ  
高桑 由希子 (聖マリアンナ医科大学)

たまい ひろや  
玉井 博也 (慶應義塾大学医学部)

とのおか くみこ  
殿岡 久美子 (聖マリアンナ医科大学)

なわた けんと  
縄田 健斗 (千葉メディカルセンター)

のざわ とも  
野澤 智 (横浜市立大学附属病院)

はやし はえる  
林 映 (東京医科大学病院)

もり たつお  
森 達男 (東京都立大塚病院)

やまざき かずこ  
山崎 和子 (聖マリアンナ医科大学)

やまだ ぜんと  
山田 善登 (東邦大学医療センター大森病院)

いのうえ なつみ  
井上 なつみ (金沢大学附属病院)

かねこ うたこ  
金子 詩子 (新潟大学)

しのぎ としひこ  
篠木 敏彦 (国立病院機構三重病院)

たかお けん  
鷹尾 賢 (岐阜大学医学部附属病院)

たちばな みずしま まちこ  
橘 (水島) 万智子 (藤田医科大学)

にしうめ つよし  
西梅 剛 (岡崎市民病院)

はら さとし 水野 まさみ  
原 怜史 (金沢大学附属病院) 正巳 (岐阜大学医学部附属病院)

もり いちろう 横田 ゆたか  
森 一郎 (岐阜大学大学院医学系研究科) 裕 (一宮市立市民病院)

よこやま ただふみ 井澤 かずし  
横山 忠史 (金沢大学附属病院) 和司 (京都大学医学部附属病院)

おかの たかいち かくち やすし  
岡野 隆一 (神戸大学医学部附属病院) 寛知 泰志 (洛和会音羽病院)

くきだ ゆうじ しばはら たかゆき  
荃田 祐司 (京都第二赤十字病院) 柴原 理志 (大阪けいさつ病院)

たなか たかゆき たむら まさお  
田中 孝之 (天津赤十字病院) 田村 誠朗 (兵庫医科大学医学部)

ながはら ひでたけ ひ わ りょうすけ  
永原 秀剛 (永原医院) 日和 良介 (京都大学医学部附属病院)

ふじい たかゆき ふじた ゆうや  
藤井 貴之 (京都大学医学部附属病院) 藤田 雄也 (大阪公立大学大学院医学研究科)

みずた ま お もりた たかよし  
水田 麻雄 (兵庫県立こども病院) 森田 貴義 (大阪大学医学部附属病院)

ややま たかふみ おかざき りょう た  
彌山 峰史 (滋賀医科大学) 岡崎 亮太 (鳥取大学医学部附属病院)

かわの ひろし せき かずしげ  
河野 弘 (徳島大学病院) 関 万成 (山口大学医学部附属病院)

ないとう のぶひと ほらだ ともや  
内藤 伸仁 (徳島大学病院) 原田 智也 (鳥取大学医学部附属病院)

やしろ まさと やまさき あきら  
八代 将登 (岡山大学病院) 山崎 章 (鳥取大学医学部)

はしもと くにお まつだ こうたろう  
橋本 邦生 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 松田 光太郎 (久留米大学病院)

わきぐち ひろゆき  
脇口 宏之 (大分大学医学部)

(\*所属は申請時のものを記載)

## 1. 名誉会員の選任の報告の件(6名)

名誉会員の内規により「名誉会員」「国際名誉会員」とする。

廣畑 俊成 (信原病院)

杉山 英二 (JA 広島厚生連吉田総合病院)

竹内 勤 (埼玉医科大学)

Gerd R. Burmester (Germany)

Iain B. McInnes (United Kingdom)

Josef S. Smolen (Austria)

## 2. 功労会員の選任・報告の件(36名)

泉山 朋政 (東仙台リウマチ科内科クリニック)

森尾 泰夫 (米子東病院)

佐藤 健比呂 (きたしろクリニック内科さとう医院)

大橋 弘幸 (市立御前崎総合病院)

広瀬 勲 (広瀬整形外科リウマチ科)

河部 庸次郎 (嬉野温泉病院)

梅原 久範 (市立長浜病院)

山村 昌弘 (岡山済生会総合病院)

天野 幹三 (広島クリニック)

大曾根 康夫 (川崎市立川崎病院)

大平 卓 (医療法人社団康進会大平整形外科リウマチ科)

向井 正也 (桑園中央病院)

佐田 榮司 (介護老人保健施設垣生あいじゅ)

岡山 昭彦 (宮崎県健康づくり協会)

小出 純 (慈誠会上板橋病院)

箱田 雅之 (安田女子大学)

久我 芳昭 (あずまりウマチ・内科クリニック)

小岩 政仁 (越谷慶友整形外科  
リウマチクリニック)

山田 秀裕 (聖隷横浜病院)

武井 正美 (公立阿伎留医療センター)

生山 祥一郎 (大分三愛メディカルセンター)

岡野 裕 (国立病院機構東京医療センター)

小池 達也 (大阪公立大学大学院医学研究科)

森 諭史 (聖隷浜松病院)

菊池 啓 (社会医療法人啓仁会堺咲花病院)

西村 慶太 (下井病院)

田中 廣壽 (北里大学北里研究所病院)

定本 清美 (さだもとクリニック)

井樋 栄二 (東北労災病院)

木谷 敦 (米国国立アレルギー感染症研究所)

船内 正憲 (西宮渡辺病院)

藤本 隆 (社会医療法人高清会  
香芝旭ヶ丘病院)

厚井 薫 (あつい整形外科・リウマチ科)

田窪 伸夫 (田窪リウマチ・整形外科)

鏑木 淳一 (医療法人社団慈誠会人間ドック会館クリニック  
上板橋病院)

津村 弘 (大分大学医学部附属病院)

第73回日本リュマチ学会会長 候補者  
(2029年4月開催予定)

注：年齢は学術集会開催年の4月1日現在満66歳未満である者  
【1963年(昭和38年)4月2日以後生まれの者】

□ 藤井 隆夫 (昭和38年6月23日生)

和歌山県立医科大学医学部  
リュマチ・膠原病内科学講座教授

推薦者：田中栄・森信暁雄・川上純・桑名正隆・高橋伸典

所 信：次頁掲載

略 歴： “

業 績： “



Department of Rheumatology and Clinical Immunology  
Wakayama Medical University

811-1 Kimiidera, Wakayama 641-8509, JAPAN

TEL: 073-441-0875 / FAX: 073-441-0874

令和8年1月20日

一般社団法人 日本リウマチ学会

理事長 田中 良哉 先生

このたび別添のごとく、5名の理事または評議員の先生よりご推薦を頂き、第73回日本リウマチ学会総会・学術集会（2029年4月開催予定）の会長に立候補いたしたく存じます。ご高配のほど、何卒よろしくお願いいたします。

和歌山県立医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科学講座 教授

藤井 隆夫 

電話：073-441-0875

FAX：073-441-0874

e-mail: takfujii@wakayama-med.ac.jp

令和8年1月20日

一般社団法人 日本リウマチ学会  
理事長 田中 良哉 先生

推薦書

第73回日本リウマチ学会総会・学術集会（2029年4月開催予定）の会長候補として、和歌山県立医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科学講座 教授 藤井 隆夫 氏を適任と考えて、推薦致します。

【推薦者】

東京大学大学院医学系研究科  
外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 整形外科学 教授  
(副理事長) 田中 栄

田中 栄



京都大学大学院医学研究科医学専攻内科学講座  
臨床免疫学 教授  
(理事) 森信 暁雄

森信 暁雄



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻  
リウマチ・膠原病内科学分野 教授  
川上 純

川上 純



日本医科大学大学院医学研究科  
アレルギー膠原病内科学分野 大学院教授  
桑名 正隆

桑名 正隆



愛知医科大学医学部 整形外科学講座 教授  
(理事) 高橋 伸典

高橋 伸典



令和 8 年 1 月吉日

第 73 回日本リウマチ学会総会・学術集会会長への立候補における所信

和歌山県立医科大学医学部  
リウマチ・膠原病内科学講座  
教授 藤井 隆夫

このたび、2029 年 4 月開催予定の第 73 回リウマチ学会総会・学術集会の会長に立候補致します。

日本リウマチ学会 (JCR) 総会・学術集会は 2026 年 4 月で第 70 回を迎える歴史ある学会です。その間、リウマチ・膠原病診療は著しい進歩を遂げて参りました。関節リウマチ (RA) や乾癬性関節炎 (PsA) に対して、多数の生物学的抗リウマチ薬 (bDMARD)、JAK 阻害薬が発売され、国内外でガイドラインや治療目標が整備されたことにより、寛解が充分望める時代となりました。また多くの膠原病に対しても病態に合わせた生物学的製剤が使用できるようになり、グルココルチコイド (GC) に頼らなくとも再燃を抑制し患者ダメージを最小限に抑えることができるようになりつつあります。その一方で、Difficult-to Treat RA (D2TRA) などの medical unmet needs がいまだ存在し、リンパ増殖性疾患や帯状疱疹などの感染症といった薬剤使用中高頻度に起こりえる有害事象の問題があります。また診療に地域格差があることや、一部の生物学的製剤が著しく高額であることなどから、膠原病リウマチ診療を社会的問題として対応していく必要があると思います。

私は 2023 年度より JCR 理事、近畿支部 支部長を務め、2025 年度からは副理事長を拝命しております。また 2009 年以降、専門医資格認定委員会、MTX 診療ガイドライン小委員会、社会保険委員会、抗リウマチ薬市販後調査小委員会 (PMS 委員会) など多くの委員会に所属し、2015 年からは生涯教育委員会副委員長、2023 年からは Modern Rheumatology Case Reports (MRCR) 編集委員会委員長 (編集長)、2025 年からは専門医制度委員会委員長、膠原病リウマチ内科学の医学部卒前教育委員会委員長を務めております。上記の委員会を通じて、RA に関連するリンパ増殖性疾患、JAK 阻害薬使用中のニューモシスティス肺炎などの情報を会員に向けて発信してきました。また JCR の将来を考えると、リウマチ整形外科の若手評議員が減少していること、膠原病リウマチ内科学の講座が存在しない大学が全国に散見されることは極めて大きな懸念事項であると考えています。現在理事長とともに指導医が少なく膠原病リウマチ専門講座がない大学を訪問し、医学部長や病院長にその必要性を訴え続けている状況です。

私が膠原病内科医になった 1989 年 (平成元年) では、RA の治療は金製剤、膠原病の治療は GC が中心でした。したがってリウマチ・膠原病診療は想像以上に進化したと思います。JCR 総会・学術集会では学術集会委員会をはじめ理事会や各委員会のご指導のもと、より多くの、特に若い医師・研究者が JCR 総会に参加し、もっともっとリウマチ・膠原病診療・研究を進化させてもらえるよう努力する所存です。そして内科・整形外科・小児科・基礎各分野において、リウマチ・膠原病領域が極めて重要であることを発信できるような学会にしたいと思います。会員の皆様におかれましては、何卒ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和 8 年 1 月 20 日現在

## 略 歴

藤井 隆夫 (ふじい たかお)

生年月日 昭和 38 年 6 月 23 日 (満 62 歳)

現職 和歌山県立医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科学講座 教授  
和歌山県立医科大学附属病院 リウマチ・膠原病センター長

### <学歴>

平成元年 3 月 慶應義塾大学医学部 卒業

平成 5 年 3 月 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了

平成 7 年 2 月 慶應義塾大学 医学博士

平成 7 年 10 月 米国 Yale 大学医学部内科学リウマチ臨床免疫学 post-doctoral associate

### <職歴>

平成 5 年 4 月 慶應義塾大学医学部内科学教室 専修医 (血液感染リウマチ内科)

平成 10 年 6 月 慶應義塾大学医学部内科学教室 専修医 (血液感染リウマチ内科)

平成 12 年 10 月 慶應義塾大学医学部内科学 助手 (血液感染リウマチ内科)

平成 13 年 6 月 京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科 助手

平成 16 年 11 月 京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 講師

平成 21 年 10 月 京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 准教授

平成 23 年 4 月 京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座  
(京大病院リウマチセンター [寄附講座]) 特定准教授

平成 26 年 4 月 同 特定教授

平成 27 年 10 月 和歌山県立医科大学医学部 リウマチ・膠原病科学講座 教授

平成 28 年 5 月 和歌山県立医科大学附属病院 リウマチ・膠原病センター長 (兼任)

令和 6 年 6 月 和歌山県立医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科学講座 教授 (科名変更)

現在に至る

### <資格>

平成 5 年 9 月 日本内科学会認定内科医

平成 7 年 6 月 日本リウマチ財団登録医

平成 11 年 3 月 日本リウマチ学会認定リウマチ専門医

平成 20 年 3 月 日本リウマチ学会指導医

平成 30 年 2 月 日本臨床免疫学会免疫療法認定医

### <受賞歴>

平成 10 年 アメリカリウマチ学会 Senior Rheumatology Investigator Award

平成 26 年 Modern Rheumatology Top Reviewer Award 2013

### <所属学会ならびに役員>

#### ● 日本リウマチ学会 (評議員)

専門医資格認定委員会問題作成委員 委員 (平成 21 年 4 月～平成 29 年 4 月)

MTX 診療ガイドライン小委員会 委員 (平成 21 年 4 月～令和 7 年 4 月)

社会保険委員会 委員 (平成 23 年 7 月～平成 25 年 4 月)

生物学的製剤安全性検証小委員会 委員（平成 23 年 7 月～平成 25 年 4 月）  
抗リウマチ薬市販後調査小委員会 委員（平成 25 年 4 月～令和 7 年 4 月）  
生涯教育委員会 副委員長（平成 27 年 4 月～令和 5 年 4 月）  
MRCR 編集委員会 副委員長（平成 29 年 4 月～令和 5 年 4 月）  
理事（令和 5 年 4 月～現在）  
専門医制度委員会 副委員長（令和 5 年 4 月～令和 7 年 4 月）  
MRCR 編集委員会 委員長（令和 5 年 4 月～現在）  
副理事長（令和 7 年 4 月～現在）  
学術集会委員会 副委員長（令和 7 年 4 月～現在）  
製造販売後調査小委員会 委員（令和 7 年 4 月～現在）  
ガイドライン委員会 副委員長（令和 7 年 4 月～現在）  
調査研究委員会 副委員長（令和 7 年 4 月～現在）  
専門医制度委員会 委員長（令和 7 年 4 月～現在）  
膠原病リウマチ内科学の医学部卒前教育委員会 委員長（令和 7 年 4 月～現在）

- 日本内科学会（評議員）  
Internal Medicine 編集委員（令和 4 年～現在）  
日本内科学会 学術委員会 委員（令和 6 年～現在）
- 日本臨床免疫学会（評議員）
- 日本臨床リウマチ学会（評議員）
- 日本炎症・再生医学会（評議員）
- 日本リウマチ財団（登録医）  
日本リウマチ財団教育研修委員（平成 28 年～現在）

#### <公的・社会活動>

- 厚生労働省班会議 分担研究者  
混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究班（平成 17～22 年度）  
混合性結合組織病の病態解明、早期診断と治療法の確立に関する研究班（平成 23～25 年度）  
難治性血管炎に関する調査研究班（平成 20 年度～令和元年度）  
難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班（令和 2 年度～現在）  
自己免疫疾患に関する調査研究班（MCTD 分科会、平成 29 年度～現在）
- 日本リウマチ友の会 監事（令和 5 年 6 月～令和 7 年 6 月）

#### <学術雑誌 Editorial Board>

Editor-in-Chief: Modern Rheumatology Case Reports（日本リウマチ学会）

Editor: Intern Medicine（日本内科学会）

#### <競争的公的資金獲得状況（代表）>

文部科学省科学研究費 10 件（奨励研究 A 4 件、基盤 C 6 件）

令和8年1月20日現在

## 業績目録

和歌山県立医科大学医学部  
リウマチ・膠原病内科学講座  
教授 藤井 隆夫

### 主な学会発表

- ・国内学会（特別講演/シンポジウム/教育講演）40 編
- ・国際学会 66 編

### 欧文出版物

- ・欧文原著論文 169 編（うち欧文総説 2 編）

### 代表原著論文（50 論文）

1. Shimomura Y, Iwata S, Matsumiya R, Kato T, Ueno K, Nishikawa T, Sonoda T, Fujii T. The effectiveness and safety of subcutaneous methotrexate injection in Japanese patients with rheumatoid arthritis in a real-world setting. *Mod Rheumatol*, doi: 10.1093/mr/roaf093. Online ahead of print.
2. Watanabe R, Fujii T, Miyawaki Y, Koike H, Bando M, Hashimoto M, Tamura N. Concordance between treatment guideline and daily practice in the management of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: A cross-sectional web-questionnaire survey. *Mod Rheumatol*2026;36:68-76.
3. Kondoh Y, Fujii T, Inoue Y, Atsumi T. Unmet needs and emerging pharmacotherapies for autoimmune connective tissue disease-associated interstitial lung diseases. *Autoimmu Rev* 2025;24:103900.
4. Kuwana M, Sugiyama N, Momohara S, Atsumi T, Takei S, Tamura N, Harigai M, Fujii T, Matsuno H, Yamamoto K, Takasaki Y, Okamoto N, Takahashi N, Nakajima A, Nakajima A, Tanigawa M, Endo Y, Hirano T, Hoshi M, Mimori T, Takagi M, Tanaka S, Tanaka Y, Takeuchi T. Three-year safety and effectiveness of tofacitinib in patients with rheumatoid arthritis in Japan: final analysis of an all-case post-marketing surveillance study. *Mod Rheumatol*2025;35:637-649.
5. Okamoto N, Atsumi T, Takagi M, Takahashi N, Takeuchi T, Tamura N, Nakajima A, Nakajima A, Fujii T, Matsuno H, Ishii T, Tsujimoto N, Nishikawa A, Minatoya M, Tanaka Y, Kuwana M. Safety of baricitinib in Japanese patients with rheumatoid arthritis in clinical use: 3-year data of all-case post-marketing surveillance study. *Mod Rheumatol*2024;35:215-224.
6. Abe Y, Fujii T, Miyawaki Y, Sugihara T, Uchida HA, Maejima Y, Watanabe Y, Hashimoto T, Miyamae T, Nakaoka Y, Harigai M, Tamura N. Real-world clinical decisions of physicians in the management of Takayasu arteritis and giant cell arteritis in Japan: A cross-sectional web questionnaire survey. *Mod Rheumatol*2024;34:1194-1201.
7. Kuwana M, Sugiyama N, Momohara S, Atsumi T, Takei S, Tamura N, Harigai M, Fujii T, Matsuno H, Takeuchi T, Yamamoto K, Takasaki Y, Tanigawa M, Endo Y, Hirose T, Morishima Y, Yoshii N, Mimori T, Takagi M. Six-month safety and effectiveness of tofacitinib in patients with rheumatoid arthritis in Japan: Interim analysis of post-marketing surveillance. *Mod Rheumatol*2024. 34:272-286.
8. Kameda H, Yamaoka K, Yamanishi Y, Tada M, Koike R, Nakajima A, Fusama M, Fujii T. Japan College of Rheumatology guidance for the use of methotrexate in patients with rheumatoid arthritis: Secondary publication. *Mod Rheumatol*2023;34:1-10.
9. Harigai M, Fujii T, Sakai R, Igarashi A, Shoji A, Yamaguchi H, Iwasaki K, Makishima M, Yoshida A, Okada N, Yamashita K, and Kawahito Y Risk of hospitalized infections in older elderly patients with rheumatoid arthritis treated with tocilizumab or other biological/targeted synthetic disease-

- modifying antirheumatic drugs: Evaluation of data from a Japanese claims database. *Mod Rheumatol* 2024;34:287-296.
10. Miyawaki Y, [Fujii T](#), Anan K, Kodera M, Kikuchi M, Sada KE, Nagasaka K, Bando M, Sugiyama H, Kaname S, Harigai M, and Tamura N. Concordance between practice and published evidence in the management of ANCA-associated vasculitis in Japan: A cross-sectional web-questionnaire survey. *Mod Rheumatol* 2023;33:990-997.
  11. Saito R, Tanaka M, Ito H, Kuramoto N, [Fujii T](#), Saito S, Kaneko Y, Nakano K, Saito K, Takada H, Sugimoto N, Sasaki S, Harigai M, and Suzuki Y. Overall survival and post-spontaneous regression relapse-free survival of patients with lymphoproliferative disorders associated with rheumatoid arthritis: A multi-center retrospective cohort study. *Mod Rheumatol* 2022;32:50-58.
  12. Nakano K, Tanaka Y, Saito K, Kaneko Y, Saito S, Tanaka M, Saito R, [Fujii T](#), Kuramoto N, Sugimoto N, Takada H, Harigai M, Sasaki S, and Suzuki Y. Treatment of rheumatoid arthritis after regression of lymphoproliferative disorders in patients treated with methotrexate: a retrospective, multi-center descriptive study. *Mod Rheumatol* 2022;32:41-49.
  13. Takada H, Kaneko Y, Nakano K, Tanaka M, [Fujii T](#), Saito K, Sugimoto N, Sasaki S, Saito S, Saito R, Kuramoto N, Harigai M, and Suzuki Y. Clinicopathological characteristics of lymphoproliferative disorders in 232 patients with rheumatoid arthritis in Japan: A retrospective, multicenter, descriptive study. *Mod Rheumatol* 2022;32:32-40.
  14. Kuramoto N, Saito S, [Fujii T](#), Kaneko Y, Saito R, Tanaka M, Takada H, Nakano K, Saito K, Sugimoto N, Sasaki S, Harigai M, and Suzuki Y. Characteristics of rheumatoid arthritis with immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders to regress spontaneously by the withdrawal of methotrexate and their clinical course: A retrospective, multicenter, case control study. *Mod Rheumatol* 2022;32:24-31.
  15. Kondoh Y, Makino S, Ogura T, Suda T, Tomioka H, Amano H, Anraku M, Enomoto N, [Fujii T](#), Fujisawa T, Gono T, Harigai M, Ichiyasu H, Inoue Y, Johkoh T, Kameda H, Kataoka K, Katsumata Y, Kawaguchi Y, Kawakami A, Kitamura H, Kitamura N, Koga T, Kurasawa K, Nakamura Y, Nakashima R, Nishioka Y, Nishiyama O, Okamoto M, Sakai F, Sakamoto S, Sato S, Shimizu T, Takayanagi N, Takei R, Takemura T, Takeuchi T, Toyoda Y, Yamada H, Yamakawa H, Yamano Y, Yamasaki Y, Kuwana M and joint committee of Japanese Respiratory Society and Japan College of Rheumatology. 2020 guide for the diagnosis and treatment of interstitial lung disease associated with connective tissue disease. *Respir Investig* 2021;59:709-740.
  16. Tabata K, Jinnin M, Furukawa K, Tani S, Okuhira H, Mikita N, and [Fujii T](#). Finger sweating levels evaluated by video capillaroscopy system are increased in patients with systemic sclerosis compared to pre-clinical stage patients. *Drug Discov Ther* 2021;14:325-329.
  17. Ishigooka N, [Fujii T](#), Abe H, Murakami K, Nakashima R, Hashimoto M, Yoshifuji H, Tanaka M, Ito H, Ohmura K, Morita S, and Mimori T. Predicting factors for disappearance of anti-mutated citrullinated vimentin antibodies in sera of patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol* 2020;30:450-457.
  18. Tabata K, Mikita N, Yasutake M, Matsumiya R, Tanaka K, Tani S, Okuhira H, Jinnin M, and [Fujii T](#). Up-regulation of IGF-1, RANTES and VEGF in patients with anti-centromere antibody-positive early/mild systemic sclerosis. *Mod Rheumatol* 2020;31:171-176.
  19. Kondo-Ishikawa S, [Fujii T](#), Ishigooka N, Murakami K, Nakashima R, Hashimoto M, Yoshifuji H, Tanaka M, Ohmura K, and Mimori T. Association of anti-NR2 and U1RNP antibodies with neurotoxic inflammatory mediators in cerebrospinal fluid from patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus. *Lupus* 2020;29:1673-1682.
  20. Torii M, Hashimoto M, Hanai A, [Fujii T](#), Furu M, Ito H, Uozumi R, Hamaguchi M, Terao C, Yamamoto W, Uda M, Nin K, Morita S, Arai H, and Mimori T. Prevalence and factors associated with sarcopenia in patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol* 2019;29:589-595.
  21. Ishikawa Y, Hashimoto M, Ito H, Tanaka M, Yukawa N, [Fujii T](#), Yamamoto W, Mimori T, and Terao C. Anti-nuclear antibody development is associated with poor treatment response to biological disease-modifying anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis. *Semin Arthritis Rheum* 2019;49:204-210.
  22. Kameda H, [Fujii T](#), Nakajima A, Koike R, Sagawa A, Kanbe K, Tomita T, Harigai M, Suzuki Y, and Japan College of Rheumatology subcommittee on the guideline for the use of methotrexate in

- patients with rheumatoid arthritis. Japan College of Rheumatology guideline for the use of methotrexate in patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol* 2019;29:31-40.
23. Fujita Y, Fujii T, Shimizu H, Sato T, Nakamura T, Iwao H, Nakajima A, Miki M, Sakai T, Kawanami T, Tanaka M, Masaki Y, Fukushima T, Okazaki T, Umehara H, and Mimori T. Isolation of vascular smooth muscle antigen-reactive CD4<sup>+</sup>  $\alpha$   $\beta$  Th1 clones that induce pulmonary vasculitis in MRL/Mp-*Fas*<sup>+/+</sup> mice. *Cell Immunol* 2016;303:50-54.
  24. Sekiguchi M, Fujii T, Matsui K, Murakami K, Morita S, Ohmura K, Kawahito Y, Nishimoto N, Mimori T, Sano H, and the ABROAD Study Investigators. Differences in predictive factors for sustained clinical remission with abatacept between younger and elderly patients with biologic-naive rheumatoid arthritis: Results from the ABROAD Study. *J Rheumatol* 2016;43:1974-1983.
  25. Ishikawa Y, Fujii T, Kondo-Ishikawa S, Yukawa N, Hashimoto M, Furu M, Ito H, Ohmura K, and Mimori T. Immunogenicity and lupus-like autoantibody production can be linked to each other along with type I interferon production in patients with rheumatoid arthritis treated with infliximab: A retrospective study of a single center cohort. *PLoS One* 2016;11:e0162896.
  26. Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Arinuma Y, Makino H, and for the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Issues associated with the Ministry of Health, Labour and Welfare diagnostic criteria for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitides: Reclassification of patients in the prospective cohort study of remission induction therapy in Japanese patients with ANCA-associated vasculitides according to the MHLW criteria. *Mod Rheumatol* 2015;25:657-659.
  27. Fujii T. Direct and Indirect pathogenic roles of autoantibodies in systemic autoimmune diseases. *Allergol Int* 2014;63:515-522.
  28. Hashimoto M, Fujii T, Hamaguchi M, Furu M, Ito H, Terao C, Yamamoto K, Yamamoto W, Matsuo T, Mori M, Ohmura K, Kawabata H, and Mimori T. Increase of hemoglobin levels by anti-IL-6 receptor antibody (tocilizumab) in rheumatoid arthritis. *PLoS One* 2014;9:e98202.
  29. Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Dobashi H, Takasaki Y, Ito S, Yamada H, Wada T, Hirahashi J, Arimura Y, Makino H, and for the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Classification and characteristics of Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study. *Arthritis Res Ther* 2014;16:R101.
  30. Yokoyama T, Fujii T, Kondo-Ishikawa S, Yamakawa N, Nakano M, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, and Mimori T. Association between anti-U1 ribonucleoprotein antibodies and inflammatory mediators in cerebrospinal fluid of patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus. *Lupus* 2014;23:635-642.
  31. Fujita Y, Fujii T, Mimori T, Sato T, Nakamura T, Iwao H, Nakajima A, Miki M, Sakai T, Kawanami T, Tanaka M, Masaki Y, Fukushima T, Okazaki T, and Umehara H. Deficient leptin signaling ameliorates systemic lupus erythematosus lesions in MRL/Mp-*Fas*<sup>dr</sup> mice. *J Immunol* 2014;192:979-984.
  32. Washio M, Fujii T, Kuwana M, Kawaguchi Y, Mimori A, Horiuchi T, Tada Y, Takahashi H, Mimori T, and Japan MCTD study group. Lifestyle and other related factors for the development of mixed connective tissue disease among Japanese females in comparison with systemic lupus erythematosus. *Mod Rheumatol* 2014;24:788-792.
  33. Nakano M, Fujii T, Hashimoto M, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, Nakaizumi A, and Mimori T. Type I interferon induces CX3CL1 (fractalkine) and CCL5 (RANTES) production in human pulmonary vascular endothelial cells. *Clin Exp Immunol* 2012;170:94-100.
  34. Yukawa N, Fujii T, Kondo-Ishikawa S, Yoshifuji H, Kawabata D, Nojima T, Ohmura K, Usui T, and Mimori T. Correlation of antinuclear antibody and anti-double-stranded DNA antibody with clinical response to infliximab in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective clinical study. *Arthritis Res Ther* 2011; 13: R213.
  35. Sato T, Fujii T, Yokoyama T, Fujita Y, Imura Y, Yukawa N, Kawabata D, Nojima T, Ohmura K, Usui T, and Mimori T. Anti-U1 RNP antibodies in cerebrospinal fluid are associated with central neuropsychiatric manifestations in systemic lupus erythematosus and mixed connective tissue disease. *Arthritis Rheum* 2010;62:3730-3740.

36. Fujii T, Okada M, Fujita Y, Sato T, Tanaka M, Usui T, Umehara H, and Mimori T. Vaccination with autoreactive CD4<sup>+</sup>Th1 clones in lupus-prone MRL/Mp-*Fas*<sup>lpr/lpr</sup> mice. *J Autoimmun* 2009;33:125-134.
37. Fujita Y, Fujii T, Nakashima R, Tanaka M, and Mimori T. Aseptic meningitis in mixed connective tissue disease: cytokine and anti-U1RNP antibodies in cerebrospinal fluids from two different cases. *Mod Rheumatol* 2008;18:184-188.
38. Yoshifuji H, Fujii T, Kobayashi S, Imura Y, Fujita Y, Kawabata D, Usui T, Tanaka M, Nagai S, Umehara H, and Mimori T. Anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibodies in clinical course prediction of interstitial lung disease complicated with idiopathic inflammatory myopathies. *Autoimmunity* 2006;39:233-241.
39. Fujii T, Mimori T, Kimura N, Satoh S, and Hirakata M. Pseudoscleroderma associated with transforming growth factor  $\beta$  1-producing advanced gastric carcinoma: Comment on the article by Varga. *Arthritis Rheum* 2003;48:1766-1767.
40. Fujii T, Okada M, and Craft J. Regulation of T cell-dependent autoantibody production by a  $\gamma$   $\delta$  T cell line derived from lupus-prone mice. *Cell Immunol* 2002;217:23-35.
41. Fujii T, Okada M, Mimori T, and Craft J. The transmembrane form of TNF  $\alpha$  drives autoantibody production in the absence of CD154: Studies using MRL/Mp-*Fas*<sup>lpr</sup> mice. *Clin Exp Immunol* 2002;130:224-232.
42. Fujii T, Nojima T, Yasuoka H, Satoh S, Nakamura K, Kuwana M, Suwa A, Hirakata M, and Mimori T. Cytokine and immunogenetic profiles in Japanese patients with adult Still's disease - Association with chronic articular disease -. *Rheumatology* 2001;40:1398-1404.
43. Craft J, Peng S, Fujii T, Okada M, and Fatenejad S. Autoreactive T cells in murine lupus. *Immunol Res* 1999;19:245-257.
44. Fujii T, Akizuki M, Kameda H, Matsumura M, Hirakata M, Yoshida T, Shinozawa T, and Mimori T. Methotrexate treatment in patients with adult onset Still's disease - retrospective study of 13 Japanese cases. *Ann Rheum Dis* 1997;56:144-148.
45. Fujii T, Mimori T, and Akizuki M. Detection of autoantibodies to nucleolar transcription factor NOR 90/hUBF in sera of patients with rheumatic diseases, by recombinant autoantigen-based assays. *Arthritis Rheum* 1996;39:1313-1318.
46. Kuwana M, Fujii T, Mimori T, and Kaburaki J. Enhancement of anti-DNA topoisomerase I autoantibody response after lung cancer in patients with systemic sclerosis. A report of two cases. *Arthritis Rheum* 1996;39:686-691.
47. Fujii T, Mimori T, Matsumura M, Akizuki M, and Homma M. Identification of autoantigenic epitopes on human upstream binding factor (hUBF) recognized by anti-NOR 90 in patients with Sjögren's syndrome. *Sjögren's syndrome-State of the art* 1994;595-597.
48. Tsuzaka K, Fujii T, Akizuki M, Mimori T, Tojo T, Fujii H, Tsukatani Y, Kubo A, and Homma M. Clinical significance of antibodies to native or denatured 60-kd or 52-kd Ro/SS-A proteins in Sjögren's syndrome. *Arthritis Rheum* 1994;37:88-92.
49. Ohosone Y, Mimori T, Fujii T, Akizuki M, Matsuoka Y, Irimajiri S, Hardin JA, Craft J, and Homma M. Autoantigenic epitopes of the B polypeptide of Sm small nuclear RNP particles. Identification of regions accessible only within the U1 small nuclear RNP. *Arthritis Rheum* 1992;35:960-966.
50. Fujii T, Mimori T, Hama N, Suwa A, Akizuki M, Tojo T, and Homma M. Characterization of autoantibodies that recognize U4/U6 small ribonucleoprotein particles in serum from a patient with primary Sjögren's syndrome. *J Biol Chem* 1992;267:16412-16416.